地方だより

高　層　気　象　台

上野駅から常盤線に乗車，茨城県南の観光地として筑波山と共に有名な霞ケ浦の玄関，土浦駅に下車，名物公魚などの川魚店が混じる繁華街をバスで抜けて郊外へ25分，停留所気象台で下りると，ここには国際霞ケ浦ゴルフ場がある．これを後に徒歩約15分，やがて小松林の中に聳えて当台の塔が見える．

台員総数50名，16万坪近い構内には庁舎と観測室のほか，職員の半数以上が住む宿舎があり，家族数約100名，通称‘気象台’の官舎部落を作っている．創立当時植えられた桜楓の並木は構内に咲きほこる野草と共に，花見に，蕨狩に，茸狩にと四時を楽しませ，行楽の季節には都会地からの見学をかねてのハイカーも多く，時には観光バスが数台並ぶこともある．しかし，日々の静かな環境は子女の通学の不便さ等と共に却って都会生活への憧れを誘う．旅行，運動会，映画観賞など季節に即したリクリエーションも概ね家族と共に催され，若い観測者を中心に仕事の余暇を野球に庭球にと打ち興ずる姿も好ましい光景で，明日への新しい熱と希望に満ちている．

大正8年，この索寞な広野に当台が誕生して今年で40年全国の高層気象観測所と同様毎日4回のレーウィンゾンデやレーウィンの観測が行われている．ゾンデの符号や位置も自動的に追跡記録され，直接高空の風向風速を自記する自動計算記録装置もあり，ゾンデ，レーウィンの観測もエコー方式へと移行の過程にある．普通のゾンデのほか空中電気，露点温度，放射能，オゾンを測るものも飛揚する．地上ではオゾンや輻射の観測は常時行われ，水素の自然発火等の実験も行われる．創立以来蓄積された国内外の文献や資料は研究に技術の向上に，また測器工場は器械の改造考案に貢献している．更に広大な敷地は宇宙線観測やロックーンの実験にと各方面から利用され，それらへの協力ばかりでなく，常によりよき高層気象の観測へと，新しい測器の比較やテストに又研修者の指導にと，仕事は次から次へと際限なく，高層気象台の重大さが一層自覚されて台員一同大いに張切っている。

（写真：亀田　巖）

（文　：河村　斌）